
神刀

疾風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神刀

【Nコード】

N7055A

【作者名】

疾風

【あらすじ】

この世の裏。能力を持った武器、『魔導器』というものが存在した。一人の男が作った多くの殺人兵器。その中でもとりわけ強力な7つの『魔導器』を探すために少年は魔導犯罪者を討伐するハンターとなった。

1話 小刀VS大剣(1)

暗闇に街灯に照らされた刃物が煌めく。平気だ。身体は反射的に斬撃を避け、一步下がって間合いを取った。刹那、アスファルトが碎ける音が周囲に響く。地面を見ると、大剣が通った後がはつきりと分かるほどに削れていた。大剣を軽々と振り回しているのは少年。まだ、中学生くらいとしか思えないあどけない顔には狂気が含まれていた。

あのちっこい身体で……反則だ。あれを喰らったらと思うと思わず寒気がする。『粉碎』という字の通り、粉々に碎かれるだろう。その恐怖が次第に俺を後退させた。戦力分析の結果、今の俺にははつきり言ってしまうえば勝機はない。大剣に対して小刀では分が悪すぎた。俺に残された選択肢は少なかった。

『1. 撤退 幸いスピードはこちらに分があるようだから逃げようと思えば逃げられる。2. 特攻 死にますね。はい。3. 心理戦……苦手だがこれしかないな』

「さっさと攻めてこないの？ ハンターさん。僕の大剣が怖くて逃げ腰ですか？」

勝ち誇ったような笑い声。正直むかつく。もし。俺に小刀が『何でも切れる』みたいな反則な能力を持っていたら、この瞬間にもぶっ殺してやるよ。

心の中で悪態を付くが表面上は冷静に弱点を探りに行く。

「ああ、予想外だった。あんたの腕力がそこまで強いとは……」

「腕力？ まさか！ 君、本当にハンター？ 武器に能力がついてるって考えないのかね」

優越感に浸り満足そうな顔を見て俺は心中にやりとした。表情に出ないことを祈ろう。

「武器？ その武器はなんか特殊なのか？」

「ぎゃはは、これは傑作だ。いいぜ、教えてやろう。これは『持ち

主にだけ質量を感じさせない大剣』。あんたにはきっちりと衝撃行くから覚悟しといた方がよいよ」

持ち主にだけ質量を感じさせない大剣？ ……反則。こんな状態に陥ると、高校の時あんなに嫌いだった物理法則万歳になってくるよまったく。せっかく能力聞き出せたのに解決策が見つからない……「理解できたかい？ まあ、もう死ぬんだから理解しても意味無いけどね」

「言ってる。小説ではそう言ったキャラが大概死ぬもんだ」

「あんたじゃ何もできないよ。んじや行くよ」

言葉が終わると同時に跳躍。大剣をまるで紙切れのように振り上げ、俺に向かって斬撃を放つ。一瞬前まで俺の足が置かれていたはずの所が粉碎された。一歩間違えたら即死、やってられね。

『逃げろ』

頭の中でそう繰り返される。

序章 魔導器（前書き）

すみません..序章が後になってしまいました；

序章 魔導器

この世界は平和であった。ある時まで。一人の男がこの世に生を受けるまでは……いや、その男がある石ころに興味さえ抱くまでは……

男が生まれてから十数年後、この世には『魔導器』という危険な代物が出回りはじめる。それは武器。刀、銃、鎌など形は様々だが一つだけ共通していることがある。でたらめな性能というところだ。例えば、『なんでも突き通す矛』『燃え上がる剣』なんて具合だ。これだけ見るとでたらめではあるが、マシンガンなどと比べたら別に驚異となりえない。所詮、使うのが人間なら飛び道具には勝てないのだ。しかし、困ったことに『魔導器』の力はそれだけではなかった。なんと『魔導器』は持った人の体にまで影響を及ぼす。簡単に言えば身体能力が異常に発達した化け物になるってことだ。幸い使える人間は限られた適合者であったため、世界の表面に顔は出さなかった。しかし、それでも十二分に強力な武器がこの世に生まれてしまったのだ。

強力な力は犯罪者を作り出す。魔導犯罪が増え。証拠不足で迷宮入り事件が多発し、世界は荒れ始めた。そこで、一部の真実を知っている被害者が資金を出し合い魔導犯罪者に賞金をかけた。魔導犯罪者を討伐すれば、事後処理は他人に任せお金を受け取れるというシステムを作ったのだ。『魔導器』を持つ者は三派にわかれることとなった。犯罪者、ハンター、処理者。そして、魔導犯罪は減少していったのだ。そうつい最近までは……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7055a/>

神刀

2010年10月22日00時51分発行